

## 総合健診・予防医学センター

センター長 銭谷 幹 男

教授：銭谷 幹男 肝臓病学  
教授：阪本 要一 糖尿病学  
准教授：和田 高士 予防医学  
准教授：恩田 威一 周産期医学  
(産婦人科より出向)  
講師：高橋 宏樹 肝臓病学  
(消化器・肝臓内科より出向)

総合健診・予防医学センターには新橋健診センターと晴海健診センターがある。主たる業務は人間ドック、健康診断、予防接種である。これらを通じて、予防医学に関する研究を行なっている。

### 教育・研究概要

教育として、3年生を対象に、成人における加齢変化を担当し予防医学の理解を深めている。加齢変化を知りデータを、健診データの評価にあたっては、加齢変化の適切な考慮が重要であることを強調した。

### 新橋健診センター

正常眼圧緑内障

通常の間ドックの眼科検査は、視力、眼底写真、眼圧である。近年、正常眼圧緑内障が日本人には多く、従来の眼圧検査では発見しえないことが明らかにされてきた。そこで眼科学教室緑内障研究グループ指導のもとで、2001年より日本では最初に人間ドックに視野検査を導入し、共同研究を続けてきた。今年度は日本総合健診医学会でその成果を発表した。

心疾患のハイリスク患者のスクリーニング

厚生労働科学研究循環器疾患総合研究事業の一環として、心疾患のハイリスク患者のスクリーニングしうるコンピュータシステムを構築した。本システムは株式会社日立メディコより「メタボジャッジ」という商品化される予定である。

特定健康診査

平成20年度より、医療改革制度の一環として、メタボリックシンドロームに注目した特定健康診査が開始される。本制度は40歳以上74歳以下の国民を対象に実施される。その健診の意義を国民に広く知らせ理解してもらう必要がある。そこで「専門医が教える特定健診・メタボ対策」(アスキー新書)を

上梓した。

特定保健指導

平成20年度より、医療改革制度の一環として、メタボリックシンドロームを改善させる特定保健指導が開始される。この指導には医師、保健師、管理栄養士などが携る。厚生労働科学特別研究「特定保健指導の実践者育成プログラムの開発」の班員として、メタボリックシンドローム対策としての有効性の高い食生活と運動指導の保健指導プログラムを作製した。

健康習慣「一無・二少・三多」

健康スローガン「一無・二少・三多」の健康習慣に関する、EBM検証が引き続き行なわれた。一無とは煙が無い「無煙」の習慣、二少とは「少食」「少酒」であり、食事量と飲酒量は少なめにすることである。三多とは3つの事柄を多くすることであり、「多動」「多休」「多接」である。多動とは体を多く動かす、多休とは休憩、休息、睡眠は十分とる、多接とは多くの人や物に接して、ストレスを発散し創造的な人生を送ることである。これらの健康習慣の実践状況とメタボリックシンドローム有病率の関係を論文化した。

### 晴海健診センター

タニタ体重科学研究所とトリトンの中央検査部との共同研究で、デジタル尿糖計に関する基礎・臨床的研究を行ない、日本糖尿病学会に発表するとともに原著論文として投稿中である。腹部インピーダンス法による内臓脂肪計測に関して海外の研究会で発表し、活発な討論がもたれその有用性に対する評価が示された。ネットワークサービスによる非対面指導型の減量支援プログラムを開発し、日本肥満学会で発表するとともに、板橋区医師会の特定保健指導の一環として、その有用性が検討されている。

「点検・評価」

新橋健診センター

本年度は厚生労働科学研究を2件、日立製作所との共同研究1件、公益信託タニタ健康体重基金研究1件の計4件(過去最高数)の助成研究を行なった。

とくに、厚生労働科学研究の「特定保健指導の実践者育成プログラムの開発」は厚生労働省発行の教科書的存在になるものである。和田高士がその一員に選出されたことは、東京慈恵会医科大学の予防医学研究の実績が高く評価されたことを意味するものと考えられる。

予防医学の範囲は内科のみならず、泌尿器科、眼科など広く提携され、東京慈恵会医科大学内においても、当センターの存在意義は価値あるものと考えている。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) Torisu Y, Watanabe A, Nonaka A, Midorikawa Y, Makuuchi M, Shimamura T, Sugimura H, Niida A, Akiyama T, Iwanari H, Kodama T, Zeniya M, Aburatani H. Human homolog of NOTUM, overexpressed in hepatocellular carcinoma, is regulated transcriptionally by beta-catenin/TCF. *Cancer Sci* 2008 ; 99(6) : 1139-46.
- 2) Hennes EM<sup>1)</sup>, Zeniya M, Czaja AJ (Mayo Clinic), Parés A (Ciberhed), Dalekos GN (Univ of Thessaly), Krawitt EL (Univ of Vermont College of Med), Bittencourt PL (University of São Paulo), Porta G (University of Sao Paulo School of Medicine), Boberg KM (Rikshospitalet), Hofer H (Med Univ of Vienna), Bianchi FB (Univ of Bologna), Shibata M (Kanto Med Cent NTT EC), Schramm C<sup>1)</sup>, Eisenmann de Torres B<sup>2)</sup>, Galle PR<sup>2)</sup> (<sup>2</sup>Johannes-Gutenberg-Univ), McFarlane I (King's College Hosp), Dienes HP (Institute for Patho Univ Med Cent), Lohse AW<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Univ Med Centre Hamburg Eppendorf), International Autoimmune Hepatitis Group. Simplified criteria for the diagnosis of autoimmune hepatitis. *Hepatology* 2008 ; 48(1) : 169-76.
- 3) Oikawa T, Takahashi H, Ishikawa T, Hokari A, Otsuki N<sup>1)</sup>, Azuma M<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Med and Dent Univ), Zeniya M, Tajiri H. Intrahepatic expression of the co-stimulatory molecules programmed death-1, and its ligands in autoimmune liver disease. *Pathol Int* 2007 ; 57(8) : 485-92.
- 4) Iwasaki S, Ohira H, Nishiguchi S, Zeniya M, Kaneko S, Onji M, Ishibashi H, Sakaida I, Kuriyama S, Ichida T, Onishi S, Toda G. The efficacy of ursodeoxycholic acid and bezafibrate combination therapy for primary biliary cirrhosis: A prospective, multicenter study. *Hepatol Res* 2008 ; 38(6) : 557-64.

### II. 総説

- 1) 小池和彦, 銭谷幹男. 自己免疫性肝疾患と性差. *医と薬学* 2007 ; 58(5) : 653-9.
- 2) 木下晃吉, 銭谷幹男. 肝臓がんの理解と看護ケアのポイント. *がんけあナビ* 2008 ; 1(4) : 113-8.

### III. 学会発表

- 1) 渡辺 亮<sup>1)</sup>, 鳥巢勇一, 野中 綾<sup>1)</sup>, 緑川 泰<sup>1)</sup>, 幕内雅敏, 新井田厚司<sup>1)</sup>, 秋山 徹<sup>1)</sup>, 柴原純二<sup>1)</sup>, 深山正久<sup>1)</sup>, 島村隆浩<sup>1)</sup>, 梶村春彦<sup>1)</sup>, 銭谷幹男, 油谷浩幸<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>東京大学先端科学技術研究センター). 新規 Wnt ターゲット遺伝子 NOTUM の同定と肝臓癌における異常発現 (Notum, a novel Wnt target gene overexpressed in hepatocellular carcinoma). 第 66 回日本癌学会総会. 横浜, 10 月. [日癌会総会記 2007 ; 66 : 234-5]
- 2) 穂苅厚史, 銭谷幹男, 石川智久, 宮崎 修<sup>1)</sup>, 深町勇<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>第一薬品 (株)), 黄 宝星<sup>2)</sup>, 遠藤幸喜<sup>2)</sup> (<sup>2</sup>日本農産工業 (株)), 竹原和彦 (金沢大学), 中野真範, 玉城成雄, 國安祐史, 木下晃吉, 渡辺文時, 高橋宏樹, 田尻久雄. 肝疾患における血漿 CTGF 測定の有用性. 第 11 回日本肝臓学会大会. 神戸, 10 月. [肝臓 2007 ; 48 (Suppl. 2) : A472]
- 3) 石黒晴哉, 石川智久, 銭谷幹男, 柴田聡子, 福土朝子, 平山麻美子, 小沼宗大, 中野真範, 鳥巢勇一, 木下晃吉, 國安祐史, 小池和彦, 穂苅厚史, 渡辺文時, 田尻久雄. 肝硬変における食物摂取状況の把握と栄養介入における有用性の検討. 第 11 回日本肝臓学会大会. 神戸, 10 月. [肝臓 2007 ; 48 (Suppl. 2) : A435]